

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしたグループホームとして「地域住民との交流の元で、グループホームケアのあり方、役割や課題を地域へ発信し、地域で支える町作りに貢献していきます。」との理念を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員が毎日出入りしている目に付くところに掲示している。また、毎日の朝礼時や1ヶ月に1回の職員会議時に理念の再確認と意識付けをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、入居時に説明を行っている。また、運営推進会議内でも、議題に取り入れている。		
こうりゅう				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者も含め、管理者や職員も、近所の自宅に招かれ、お花や山菜を頂いたり、ホームで取れたものを差し上げての交流を楽しんでいる。また、町内会にも加入しており、毎月の回覧板を入居者と一緒に届けに行くなど、日常的な付き合いが出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、ホームの新聞を毎月の回覧板に付けて日常の暮らしぶりや、取り組み等を知っていただき理解が得られるように努めている。町内の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方を招待し交流を深めている。また、小学校との定期的な交流会では児童が来園し、演劇を披露し入居者も楽しみにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に予想される事故やトラブルについて説明している。また、契約前に必ず施設見学を家族及び入居者に行き、不安・疑問について尋ねるようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開いており、入居者の方にも参加していただき、会議の中で意見や不満、苦情など率直な意見を頂き、改善課題として取り上げている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>行事や日常のスナップ写真や暮らしぶりを記載した報告書と毎月の「みずき新聞」を同封し家族に送付しており、職員の移動等も記載している。金銭については、必要時にホームが立て替えて明細書で家族が確認して精算している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問も多く、訪問時には意見や苦情が気兼ねなく言える雰囲気作りを心掛けている。また定期的にご家族にアンケートを郵送して意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に新たな試みや、職員の提案等を聞く雰囲気が出来上がっており十分に運営に反映している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>病院受診や外出時の同行等、事前に把握し勤務調整を行っている。また、施設の所長や事務長も率先して調整に協力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が不満や意見が言い易いように状況に応じて、相談を受けたり、話し合いの場を設けて離職者を出さない工夫をしている。また、ユニット間の移動がある時は事前に入居者に伝え利用者へのダメージを防ぐように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用では、年齢や性別等で募集や採用対象から排除しておらず、60代までの幅広い年齢の職員が明るく活き活きと勤務している。運営者は職員と率直な意見を聴く機会を定期的に儲け、向上心を持って働けるように相談・助言を行っている。また、資格取得に向けても積極的に推進し、支援している。資格取得後の評価体制も確立している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会や職員会議時にビデオによる人権教育を行ったり、人権に関してを議題とし話し合い、啓発活動に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新採用後6ヵ月以内に新人研修を行い、年2回継続研修を行っている。また、施設内での勉強会を2ヶ月ごとに行い、介護技術については常に指導がなされている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>小竹町内の総でのグループホームが参集しての意見交換会では、各事業所が取り組んでいることを発表したり、日頃の業務での疑問点を出して改善点を見出したり、サービスの質の向上に役立っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>有給提供や親睦会を随時行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格所得の支援や資格手当及び昇給制度を設けている。毎年、資格所得者が増えている状況にある。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前の施設見学及び来訪できない方へは自宅訪問を行い、本人さんとの話し合いの場や様子観察から受け止める努力を行っている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記取り組みと同様。また、他の事例等を提示し話し易い環境を作りながら受け止める努力を行っている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人及び家族の精神的、身体的、また、環境を把握し、どんな支援が必要かを事例を出しながら、話し合い見極めていっている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の希望があればまず、ご本人の生活の場(自宅・病院・他施設等)に職員が出向き十分に話を聴き、契約前にホームへ来て頂き職員や入居者と過ごし、ホームに馴染んでもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>梅干や干し柿を上手に作ったり、調理を積極的にされる方、菜園で野菜作りを得意とされる方、大工仕事や飾りの置物を作られる利用者等、得意分野では職員が教えてもらったり、共に支えあい、共に喜びあう関係が築かれている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に1回の1泊旅行や、毎年恒例の夏祭りにご家族を招待する等をし、家族を交えた支援に努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	受診や外出等は出来るだけ、ご家族にも同行して頂いている。また、年に1回ほど1泊旅行があり、今までのご家族との関係が途切れない様努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等で支援している。また、ご家族の協力も得ている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を配慮しながら支援できるように努めている。また、他者とのコミュニケーションが取れない方には、職員が他入居者との会話の橋渡し等を行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、利用者や家族との係わり合いを大切にし、手紙のやり取り等も行っている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の情報や本人からの聞き取りにて希望や意向を把握するよう努めている。また、意思疎通の困難な利用者には、日常のかかわりの中で言葉や表情で、利用者の望んでいることを把握し一緒に行動を共にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人や家族から十分な聞き取りを行い、情報の把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活や、心身の状況を十分に観察し、少しの変化も見逃さないように努め、記録に収めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしを反映させるよう、ご本人やご家族との面談を重視しアセスメントを作成している。また、医療との連携も充分に取り、関係者全員で担当者会議を開き、家族の同意を得ている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、利用者の日常生活や健康状態の確認と把握を行い、3ヵ月毎の見直しと共に、状況変化があった場合は、家族や関係者で話し合い、現状に即した新たな計画書を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌・ケアプラン確認表等を使い情報の共有に努めている。また、看護師は、上記とは別に介護支援経過記録を活用し情報の共有に努めている。		
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年に1～2回家族より宿泊の希望があり、寝具や食事を提供し、ゆっくり過ごして頂いている。また受診の送迎や買い物の付き添いなど支援している。近くの公民館で開かれてある生き生きデイサービスに参加し健康体操や地域の人との交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日々のレクリエーションや、研修、運営推進会議等で地域の方々に、協力して頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月に1回行われている、地域のデイサービス(生き生きサロン)を利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの係りはあまり持たれていない現状にある。		今後は、地域包括支援センターとの係りを築いていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時、ご本人やご家族にかかりつけ医について説明し、納得の上了解いただいている。毎週、往診や口腔ケア等専門医師による診療を受け連携を密にしている。又緊急時の体制が整った医療機関との連携も図っている。馴染みのかかりつけ医を希望された時は、拒む事無く受診支援を図っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の日にちをご家族に前もって連絡し、ご家族・入居者・職員と一緒に相談出来るよう支援している。また、その他の協力医療機関へも、相談させて頂いている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師と、24時間連絡体制がとれる、かかりつけ医との協力の下、対応させて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は出来るだけ面会に行くようにし入居者に安心して頂ける様に努力している。また、かかりつけ医と入院先の病院関係者・職員が情報交換を行うように努めている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を定め、契約時、終末期における医療処置の対応についてホームの方針を説明している。家族の面会時は、常に状態を報告し重度化した時の対応について、早期より職員、家族、かかりつけ医など関係者との連携を密にして情報を共有している。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員・家族・かかりつけ医など関係者との連携を密にし情報を共有し、今後の変化に備え検討・準備が行える様にしている。また、入居者の出来る事・出来ないことを見極め支援できるよう努力している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者やご家族等、関係者を含め十分に話し合える場を持つようになっている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の、尊厳を最も大切にする言葉使いや、入浴、排泄等への対応について、ミーティングで常に職員の意識の向上を図っている。個人情報については記録紙の保管や秘密保持を徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりに会った支援をし、一人ひとりの個性を大切にしている。また、介護計画の更新や変更時には必ず利用者の希望を聞き計画に反映している。</p>		
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の日課は大まかに設定しているが、朝食を遅い時間に摂る方や、毎日散歩を楽しむ方、草花の手入れや、広いベランダで散歩を楽しむ方、毛筆で俳句をたしなむ方など利用者一人ひとりのペースや希望に添った生活支援がされている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に一度、訪問理容サービスを受けている。希望があれば他の美容院への送迎も受けられる体制を整えている。日々の身だしなみについても配慮している。</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>エプロンをつけた利用者と職員が一緒になって、配膳・下膳などを行っている。敷地内の畑で栽培した野菜もメニューに取り入れ職員も一緒に食事を摂り家庭的な雰囲気である。また、毎週希望メニューを取り入れ季節に合った利用者の食べたい献立を取り入れている。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒や喫煙については特別に医師から禁止が出ない限り自由に楽しんで頂いている。また、生活歴から本人さんが入所前から好んでおられた食べ物・飲み物等を把握し提供できるように介護計画に取り入れている。</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄のパターンを記録・把握し、一人ひとりに沿った支援をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回設定しているが、毎日入浴の希望があれば、要望に沿って支援している。利用者が入浴を拒む場合は職員が連携して言葉掛けや対応を工夫し、柔軟に対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベット周りの清潔を心がけ、入居者が眠れない時は、暖かい飲み物をお出しする等して、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の得意分野で、一人ひとりの力を発揮できるように、本人専用の畑やプランターで、野菜や花を育てている。デッキテラスへは、車椅子でも移動可能であり利用者は花や野菜の手入れを楽しんでいる。また、地域の文化祭に出品する物も利用者のアイデアが生かせるよう職員と一緒に取り組んでいる。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かは、個人でお金を所持されておられ、所持されていない方にも、買い物等でお金に触れる機会を設けている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしている人はホーム周辺を、足の不自由な人は職員が見守り外出の機会を作っている。近隣の方とも声掛け顔見知りとなっている。買い物やドライブ等外出支援を多くして気分転換を図っている。また、デッキテラスや中庭・畑へは自由に行き来ができる状況になっている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	半年に一回程、入居者の希望に応じて、一泊旅行にご家族も一緒にいっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも出来る様に支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等、馴染みの深い方々が面会に来られた時はいつでも歓迎している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に、福岡県身体拘束廃止委員の研修を受講させている。また、身体拘束廃止マニュアルも作成しており、職員への指導も行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	他施設で不審者や行方不明者が出ているため、行政や地域代表者が出席した運営推進会議での話し合いの結果、玄関を施錠することとした。また、家族関係者とも十分に話し合い、施錠して欲しいとの要望が強かったため、施錠に至った。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間ともホールには必ず職員がおり、入居者の所在や様子を把握できるようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特別に注意の必要なものは、保管場所にて管理させて頂いているが、日頃使われる裁縫道具や大工道具等は本人が管理し使用してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故対応マニュアルを作成し周知、徹底に努めている。勉強会も行っている。また、事故が起きたときは、ヒヤリハットや事故報告書に記録し今後の対応も話し合っている。</p>		
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>6ヶ月毎に、救命救急についての、研修や実技の指導を全職員受けている。また、緊急時に備え、緊急時対応マニュアル・緊急時の連絡網、救急車要請マニュアルが作成しており、緊急時は即座に対応出来るよう職員全員徹底している。</p>		
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>6ヶ月毎定期的に消防署から、救急救命についての研修や実技の指導を全職員受けている。火災・災害時の避難経路や避難場所の見取り図も掲示され連絡簿も作成している。また、入居者も含めた避難訓練も実施している。</p>		<p>地域住民の方を含めての避難訓練ができるように努力したい。</p>
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>入所前に、起こりえるリスクの説明を行い同意頂いている。また、一人ひとりの状態に応じ、ご家族の面会時等にも話しをさせていただいている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>1日2回～3回のバイタル測定を行い、入浴時には、身体状況の把握、日頃の様子観察を密にし、体調の変化・異変の早期発見に努めている。</p>		
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>月に二回薬剤師が来訪し医師から処方された薬の管理を行っている。その際に、日々の生活の状況を報告し、適切に支援できるように相談している。また、定期的に、薬剤師を講師に迎え、勉強会も開いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や対策の勉強会を行っている。また、便秘の方には、おやつ時にバナナなどの食物繊維が多く入っている物を食べていただいている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりに声掛けを行い、歯磨きやうがいをして頂いている。また、ご自分で出来ない方は、一人ひとり職員が付き添い介助を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者による管理栄養士の献立表をもとに、栄養バランスの摂れた食事を提供している。時には自家製の畑で取れた野菜を食材にしている。献立メニューも利用者の希望を聞き、食への関心を図っている。食事摂取・水分・嚥下など詳細に記録し健康の状態を指針にしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防と対策マニュアルに基づいて、研修を行っている。また、感染症予防の為、職員は出勤時必ず手洗いうがいをしている。面会に来られた方にも、手洗いうがいの声掛けを行いして頂いている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルに基づいて、研修を行っている。また、食中毒予防の為、台所に入る際は専用のエプロンを着用している。調理器具などは、使用后殺菌・消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲に季節の花などを植え、皆さんに親しんでもらえるように勤めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は南棟・事務所・北棟が棟続きで、仕切りがないため、建物全体がゆったりした雰囲気である。車椅子で自由に動けるデッキテラスは快適な場所となっている。台所は対面ガラスより料理の過程が見える工夫がなされている。装飾も手作りが多く着物を利用したカレンダーや写真・絵画・四季の花を活け季節感がある。少人数で過ごせる場所の確保もなされている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの端に畳の間があり、入居者の方々が思い思いに過ごしていただける空間を設けている。また、所々にソファが置かれ気の合った利用者同士が雑談を交わしたり、一人でゆっくりと寛いでいる。居室にも、利用者間の訪問を支援する為に椅子が用意されている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体症状に適したベットをホームが用意している。家具や寝具は家族と話し合い馴染みの物を持ち込んで貰っている。また、居室へは家族の写真等を飾れる場所を設けている。仏壇やテレビ・冷蔵庫等も自由に持ち込んで貰っている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前と午後に、換気の時間を決めており、その時間に窓を開け空気の入替えが出来る様にしている。また、春や秋等の過ごし易い季節は、日中は常にテラスの窓を開けており室内に外の風が入るようにしている。ホールには湿度・温度計を置き管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すりが設置してある。また、必要な方にはご家族と相談の上ベット柵にL字バーを設置していただく等、出来るだけご入居者の力で安全に生活できるように配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を突き当たりを設置したり、トイレドアの色と居室ドアの色を変えてトイレへの誘導を支援している。また、個人のレベルに配慮した支援を職員全員が統一して行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外のテラスには車椅子でも、ご入居者が自由に行き来でき、天気の良い日は、日光浴などされる姿がよく見られ、ご入居者の憩いの場となっている。また、裏の畑もテラスから見渡せるようになっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

福岡県 グループホームみずき

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員全員で介護計画に取り組み、ご入居者やご家族に納得かつ安心してホームでの生活を送って頂けるよう、ご入居者の希望や嗜好・趣味等も取り入れた日々の生活を重要視した計画を作成しています。また、日々のレクリエーションや食事等もご入居者の皆さんと話し合いながら決るようにしております。地域住民の皆さんにもホームの活動内容を理解して頂ける様に、毎月のホーム新聞を回覧版にて各家庭に配布しております。また、毎年、盛大に夏祭りを執り行い地域住民の皆様と共に楽しんでおります。今では好例行事として地域に定着しております。まだまだ、日常的に地域に溶け込む事は難しい現状にありますが、開かれたホームを目指し頑張っております。